

科目名	基礎看護学		単位 (時間)	17 (480)	27期生	DP
担当講師名	第一看護学科 全教員				1年・2年	1・2・3・4
科目設定理由	<p>看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体であり、基礎看護学はあらゆる看護学の土台となる学問である。</p> <p>看護学概論は、看護学を履修する学生が最初に学習する専門科目である。看護学全体の基本的内容から看護学の本質を理解すると同時に、看護学の豊かさや奥深さをイメージし、関心を高められることや、各看護学への学習意欲が高められるよう科目を設定した。</p> <p>基本技術Ⅰ・Ⅱでは対象の生命を守るために必要となる救命処置や対象把握や技術の選択に必要なコミュニケーションやヘルスアセスメントなどの技術について学び、看護をする上で必要な基礎的技術について学ぶ。</p> <p>看護の展開技術Ⅰでは、対象の願いに向けた看護を、科学的根拠に基づいて実践するための思考過程について学ぶ。看護は、あらゆる人が対象であり、疾病だけでなく発達段階など対象の特性を捉えながら様々な状況に応じて適切な看護を提供する必要がある。そのためには、根拠に基づいた思考過程や看護場面で実践可能な臨床判断能力判断が必要となってくる。看護の展開技術Ⅱでは、看護の展開技術Ⅰで学んだ看護の思考過程を踏まえながら、様々な看護場面に必要な臨床判断能力や技術を習得することを目的とする。</p> <p>生活援助技術Ⅰ～Ⅲは、対象の日常生活を整えるために必要な援助技術について学習をする。対象へ援助するためには、安全・安楽・自立の視点に基づいて実施していく必要がある。生活援助技術Ⅳでは、様々な状況にある対象について安全・安楽・自立を考慮した看護技術を活用・実践できることを目的に科目を設定した。</p> <p>診療に伴う援助技術Ⅰ・Ⅱでは、診療や療養の場面に必要な技術の習得を目指すことを目的としている。また、対象に対して苦痛を最小限にした看護について考えていくよう、シミュレーション学習を取り入れ、患者理解を深めながら学習していく。</p> <p>専門職業人として、質の高い看護を提供するためには研究的視点を持つことが必然であることから、看護の研究的視点と看護の探求の科目を設定した。看護の研究的視点では、看護における研究の意義と必要性を理解し看護研究の基礎を学ぶ。看護の探求では、実際に看護の課題を明確にし、研究の実際を行う。また、同時に倫理に則った研究態度を養うことを目的としている。</p>					
科目構成	科目名	看護学概論	基本技術Ⅰ	基本技術Ⅱ	看護の展開技術Ⅰ	看護の展開技術Ⅱ
	単位時間	1単位 30時間	1単位 30時間	1単位 20時間	1単位 20時間	1単位 30時間
	学習範囲	1. 看護の概念 2. 看護の変遷と理論 3. 看護の対象と健康 4. 看護における倫理 5. ケアリング 6. 看護職者と保健医療福祉チーム	1. 安全・感染予防 2. BLS 3. ヘルスアセスメント	1. コミュニケーション 2. 看護記録・報告 3. 安楽	1. 看護過程の基盤となる考え方 2. 看護過程の各段階 3. 看護過程とは	1. 看護に繋がる考え方 2. 「気づき」、「解釈」「反応」、「省察」 3. シミュレーション学習 4. 臨床判断能力とは
	科目名	生活援助技術Ⅰ 環境・活動・休息	生活援助技術Ⅱ 食事・排泄	生活援助技術Ⅲ 清潔	生活援助技術Ⅳ 様々な状態にある人への援助	生活援助技術Ⅳ 様々な状態にある人への援助
	単位時間	1単位 30時間	1単位 20時間	1単位 30時間	1単位 25時間	1単位 25時間
	学習範囲	1. 環境調整の援助 2. 活動の援助 3. 休息の援助 4. 事例検討	1. 食事の援助 2. 排泄の援助	1. 清潔の援助	1. 事例検討 2. 安全・安楽・自立を考慮した生活援助とは	1. 事例検討 2. 安全・安楽・自立を考慮した生活援助とは
	科目名	診療に伴う援助技術Ⅰ 呼吸・循環を整える技術	診療に伴う援助技術Ⅱ	看護の研究的視点	看護の探求	
	単位時間	1単位 15時間	1単位 20時間	1単位 15時間	1単位 30時間	
	学習範囲	1. 呼吸を整える援助 ・吸入療法 ・酸素吸入 ・排痰ケア ・吸引 2. 循環を整える援助 ・体温調節(巻法)	1. 与薬の基礎知識 2. 与薬の種類 3. 与薬時の看護 4. 検査・処置時の看護	1. 研究の意義と目的 2. 看護研究の方法 3. 文献検索の実際	1. ビジョン・ゴールの設定 2. 研究の実際 3. 発表と成長確認	
	実習のねらい	<p>基礎看護学実習(4単位 165時間)</p> <p>看護を知る実習(1単位 30時間)</p> <p>看護を知る実習は、看護場面の見学や体験をおとして、これから看護師らしく考え行動するための第一歩として看護師の行動の意味を知り、看護とは何かを考える実習です。</p> <p>この実習では、看護師が地域で暮らす人々や入院している患者など看護の対象者どのように関わり、どのように反応を捉え、どのように考えて看護を実践しているか、看護師の思考と行動を学びましょう。また、看護の対象者の思いを知ることができるといいですね。</p> <p>そのためには、看護師と対象者の双方に関心を寄せ、事実を捉えることが必要となります。そして、看護師の行動の意味を自分なりに推測し、その後、看護師の気づきや思考を確認する必要があります。自分の推察と看護師の思考の共通点や新たな視点に気づき、看護を行うために何が必要か考えていきましょう。また、様々な対象者を取り巻く環境にも目を向け、対象者の安全・安楽を考え積極的に関わることができるといいですね。この実習をスタートラインとし、看護とは何か、看護師の役割は何かを考えるとともに、看護の対象者について理解を深め、今後の学習につなげていきましょう。</p>				

科 目 構 成	基礎看護学実習(4単位 165時間)
	基礎看護学実習 I (1単位 45時間)
	<p>基礎看護学実習 I は、生活を整えるための援助を看護師と共に行い、その過程で健康を障害された対象の思いや生活の状態を知り、対象に合った援助を考えていきます。また、対象の全体像を捉える視点や方法を理解していきます。</p> <p>これまで学内で基本的な生活援助の方法を学習してきましたが、この実習では、患者に合った方法を選択し実施します。患者に合った援助を行うためには患者の思いを知ることが大切です。患者とコミュニケーションをとり観察をして、患者の思いを理解できるよう努力し、患者の思いに添った援助を考えていきましょう。また、援助を行う際は、常に患者の安全・安楽・自立を考えていきます。患者の状態に合わせて安全・安楽・自立を意識した援助を考えていくのは難しいことですが、看護師の姿やグループワークを通して少しずつ視野を広げ、援助に活かせるようにしていきます。援助は看護師と共に行いますが、援助前・中・後の患者の反応をよく見て援助が適切であったかどうかを振り返りましょう。実践した援助を振り返るときに有効な方法はリフレクションです。日々リフレクションを行い、自己の課題を発見し、学習して次の援助につなげていきましょう。</p> <p>この実習で、皆さんは初めて患者を受け持ちます。受け持ちを承諾してくれた患者に感謝し、看護学生として責任を持って行動しましょう。これまで学習してきたプロジェクト学習やリフレクションを使い、自己の学習課題や看護学生としての課題を明確にして取り組みましょう。</p> <p>この実習を土台とし、基礎看護学実習 II や各領域別実習へとつながっていきます。この実習で臨地での看護の学び方を身につけていきましょう。</p>
基礎看護学実習 II (2単位 90時間)	
実習のねらい	<p>基礎看護学実習 II は、対象と関わる中で、対象の健康障害や治療・療養生活による対象への影響を捉え、対象の願いに向けて、対象の身体的・心理的・社会的変化に合わせてながら必要な援助を考え実施していきます。</p> <p>この実習では、患者の健康障害や治療・療養生活が患者の身体面・心理面・社会面・生活行動にどのような影響を及ぼしているかを理解できるように患者と積極的にかかわっていきましょう。また、健康を障害された患者のその時々思いを捉えると共に、患者がどのように疾患や治療と向き合い、どのように生活してきたのか、今後どう生活していきたいのかという患者の状態や背景を踏まえた患者の願いを捉えていきましょう。患者の願いを言葉だけでなく、多方面から捉えられるように患者に関心に向け、患者を捉える力を身につけていきましょう。そして、患者の願いに向けた援助を患者と共に考えていきます。患者の状況は健康レベルや治療等により日々変化していきます。実施する援助は願いを踏まえながら、日々、刻々と変化する患者の状況に対応することが求められます。身体面・心理面・社会面の変化を捉え、その時々患者の思いに寄り添い、生活を整えるための援助を行えるよう努力しましょう。これまで学習してきたことを踏まえて、安全・安楽・自立を意識し、助言を受けながらその時々対象の状況に合った援助を考える力を身につけていきましょう。</p> <p>この実習は領域別実習の土台となる実習です。看護学生として責任を持ち、対象の看護に必要な報告・連絡・相談・確認を主体的に行う姿勢を大切にしましょう。主体的な学習に向けてこれまで実践してきたプロジェクト学習やリフレクションを使い、自己の傾向に目を向けて課題を明確にし、解決していく力をつけていきましょう。</p>
学習を支える情報	<p>基礎看護学は全ての看護学の土台となる科目です。基礎的な知識や技術を習得すると共に、学習の仕方も身につけていきましょう。看護に興味を持ち、必要な学習を自ら考え自ら学習を進めるとともに他者に相談することで学びは広がり深まります。プロジェクト学習やリフレクションの意義を理解し使いながら主体的に学習を進めていきましょう。基礎看護学を学ぶ時、自分の生活を振り返ることで、人間が安全・安楽にその人らしく生活するためにはどうしたらよいかを考える足掛かりになります。学習方法としてグループワークを多く取り入れます。グループワークでは自己の考えを述べると共に他者の考えを受け入れることが必要となります。グループワークを通して学びを深めると共に他者との関わり方も学びましょう。看護技術はトレーニングにより上達します。主体的に技術練習を行い、他者の助言も受けながら技術の上達を目指しましょう。実習では患者を受け持ち、患者に必要な援助を行います。学内の学習では、常に患者の立場に立って考え、患者の思いを尊重する姿勢を持ちましょう。</p>